



平成 26 年 6 月 16 日

各 位

会社名 : 石油資源開発株式会社
代表者名 : 代表取締役社長 渡辺 修
(コード番号 : 1662 東証第一部)

会社名 : 日本海洋掘削株式会社
代表者名 : 代表取締役社長 市川 祐一郎
(コード番号 : 1606 東証第一部)

会社名 : 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 : 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 : 1605 東証第一部)

「メタンハイドレート中長期海洋産出試験にむけての 基本方針・基本計画検討に係る支援作業」の JOGMEC からの受託について

石油資源開発株式会社(社長:渡辺 修、以下「JAPEX」)、日本海洋掘削株式会社(社長:市川 祐一郎、以下「JDC」)、国際石油開発帝石株式会社(社長:北村 俊昭、以下「INPEX」)の3社(以下、「受託3社」)は、独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)が実施する「メタンハイドレート中長期海洋産出試験にむけての基本方針・基本計画検討に係る支援作業」(以下、「受託作業」)に係る公募に受託3社として応募し、今般、下記のとおり、受託作業に係る契約を JOGMEC との間で締結しましたので、お知らせいたします。

記

【JOGMEC/受託3社間の契約内容】

件 名 : メタンハイドレート開発促進事業に関する委託業務「メタンハイドレート中長期海洋産出試験にむけての基本方針・基本計画検討に係る支援作業」

受託作業の期間 : 契約締結日～平成26(2014)年10月31日

受託作業の内容 : ①基本方針(案)策定の支援作業
②試験基本計画の立案に必要な技術検討
1) 坑井および掘削・仕上げ方法の検討
2) 産出試験システムの検討
3) その他の技術検討
③技術情報の収集

契約締結日 : 平成26(2014)年5月27日

【受託作業の推進体制】

受託業務を実施する体制として、受託3社を代表する幹事会社を JAPEX が努めます。一方、同3社は共同で支援作業マネジメントチーム(リーダー会社:JAPEX)を組成し、受託作業を遂行いたします。

受託3社は今後とも、石油天然ガスの探鉱・開発で培ってきた技術、経験、ノウハウを率先して我が国のメタンハイドレート資源開発研究に提供し、将来の商業化の実現に向けて共に邁進してまいります。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

石油資源開発株式会社	広報 IR 部	電話：03-6268-7110
日本海洋掘削株式会社	広報・IR 室	電話：03-5847-5862
国際石油開発帝石株式会社	広報・IR ユニット	電話：03-5572-0233

<補足説明>

(1) 受託3社のメタンハイドレート資源開発研究への係りについて

- ・共同受託3社のうち、JAPEX は JOGMEC のもとで、「第一回海洋産出試験」(平成25年1～3月)を含めメタンハイドレートのフィールド試験の操業オペレーター等を受託してきました。
- ・JDC も同様、その設計・開発・運用を含むエンジニアリングおよび掘削を受託してきました。
- ・また、INPEX もメタンハイドレートについては、2003年度基礎試錐「東海沖～熊野灘」を JAPEX と共同で受託した実績を有しております。

受託3社はその知見を結集することで、経済産業省が本邦で実施を計画中の中長期海洋産出試験の基本方針・基本計画の検討作業に対し、最も有効かつ現実的な提案を行ってまいります。

(2) メタンハイドレート資源開発研究におけるフィールド試験の主な経緯

- ・経済産業省は2001年から、「我が国におけるメタンハイドレート開発計画」を主導。その中で、カナダ北極圏陸上において、2001年度に温水循環法による産出試験を、また、2006～2007年度には減圧法による試験を実施し、世界で初めて、メタンハイドレート層からのメタンガス生産を確認。
- ・「南海トラフ」(1999年度)と「東海沖～熊野灘」(2003年度)で基礎試錐を実施し、東部南海トラフ海域におけるメタンハイドレート賦存状況と資源量を把握。
- ・同海域において、海洋産出試験事前掘削作業(2012年2月～3月)を実施。2013年1月～3月には、減圧法による第一回メタンハイドレートガス生産実験を実施し、海洋で初めてメタンハイドレート層からのメタンガス連続生産(約6日間、平均ガス生産量：2万立方メートル/日、累計ガス生産量：12万立方メートル)を確認。

※メタンハイドレートに係る取り組みの詳細は、「メタンハイドレート資源開発研究コンソーシアム(MH21)」のwebサイト<http://www.mh21japan.gr.jp/>でご覧いただけます。